

【Approach】3

グローバル戦略

Global Initiatives

グローバル化の推進

グローバル人材であった英吉利法律学校創立者たちの「建学の精神」を引き継ぎ、世界に存在感のある Chuo University を目指し、改革を推進しております。

■ 留学生受け入れについて

2025年までに、年間受け入れ人数 1,000 人を目指します。2019 年より開設する国際経営学部では、設置科目の 7 割以上が外国語（主に英語）による授業を行います。中央大学では初めて、卒業に必要な単位の全てを英語で行われる科目で修得することが可能となることから、留学生受け入れを一層推進してまいります。

■ 学生の海外派遣について

2025年までに、年間派遣数 2,200 人を目指します。2019 年度より開設する国際経営学部では、海外短期留学を必修化します。また、長期海外留学後帰国した学生に対するキャリア支援も充実してまいります。

■ グローバル・プロフェッショナルの育成

「グローバル FLP (Faculty-Linkage Program)」を 2018 年度に開設しました。本プログラムは、実践的要素と実務的海外体験を取り入れた外国語による全学横断型の国際化教育プログラムです。

■ 「国際共同学位」の構築

韓国の成均館大学と本学大学院法学研究科の 2 つの学位を授与する「国際共同学位（ダブル・ディグリー）」を 2018 年度開設しました。台湾の国立中央大学と本学大学院理工学研究科との間でもダブルディグリーについて協定締結を行い、開設に向け準備を進めています。

■ 「国際共同研究ネットワーク」の構築

文部科学省私立大学研究ブランディング事業に申請し、2016 年度・2017 年度と 2 年連続でタイプ B【世界展開型】に採択されました。本学は、本事業に採択された 2 つのテーマをもとに、大学間連携、産学官連携や国際共同研究等を推進し、「地球規模での複雑な諸問題の解決に寄与する」ことを目指します。

< 2016 年度 >

「アジア太平洋地域における法秩序多様性の把握と法の支配確立へ向けたコンバージェンスの研究」

【代表者】佐藤 信行（法務研究科 教授）

< 2017 年度 >

「超スマート社会の実現に向けた沿岸都市における防災プラットフォームの開発」

【代表者】有川 太郎（理工学部 都市環境学科 教授）

【Approach】4

スポーツ振興事業

Sports

スポーツ振興事業

選手の育成強化による実績の向上と、スポーツに関する伝統の維持・発展の両面を重視し、大学としてスポーツ振興を図るための独自の施策を展開します。



陸上競技部 長距離ブロック

スポーツ振興事業の目標

- 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに 20 人以上の本学代表選手（在学生・卒業生）の派遣を目指します。
- 箱根駅伝は 2020 年までに 5 位以内、2025 年までに優勝を目指します。

推進体制

- スポーツ振興・強化推進室を設置し、その下に「オーナー部門」「スポーツ振興部門」の 2 つの専門部門を設けて中期的・長期的な強化策を一体的に推進できる体制を整えました。
- 「オーナー部門」においては、優秀選手の確保・育成のための強化策を実施し、オリンピック・パラリンピックへの選手輩出に向けた支援、駅伝強化計画の策定・実施などに取り組んでいます。支援方針として「選手への支援」と「優秀選手の獲得・育成・強化の環境向上」を掲げ、奨学支援、合宿遠征費の補助、専門スタッフ（トレーナー、栄養士等）と連携したトレーニング、スポーツパフォーマンス測定機器の整備などの支援プログラムを実施しています。
- 「スポーツ振興部門」においては、中大スポーツの伝統の維持・発展のため、体育部会が主要競技会での優勝を果たせるよう強化支援に取り組むことで、中大スポーツ全体の競技力向上と、学生、卒業生、教職員等すべての構成員の帰属意識の向上を図ります。